

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2772300972
法人名	桂商事株式会社
事業所名	グループホームさくら北畠
訪問調査日	平成 19 年 6 月 27 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年6月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2772300972
法人名	桂商事株式会社
事業所名	グループホームさくら北畠
所在地	大阪市阿倍野区播磨町1丁目19番9号 (電話)06-6623-7200

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月20日

## 【情報提供票より】(19年5月11日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤	27 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 4階建
	4階建ての 2階 ~ 4階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	有( 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

## (4)利用者の概要(5月11日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	10 名	要介護2	10 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	59 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 錦秀会病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄御堂筋線「西田辺駅」から10分の交通至便な都市型のホームである。1階は医院とデイケアで、2階～4階部分の3ユニットが入りを別にした「家」として独立した造りになっている。全体にゆったりとしたスペースが確保されて入居者が残された身体的機能を発揮できるようにキッチンが大きく皆で食事作りに参加出来るようになっている。管理者は職員の指導育成に積極的に取り組み、各ユニットでチームワーク良く工夫をしながら介護が行われている様に感ずる。今後は地域とのつながりにを一層強めて、地域に溶け込んだグループホームを目指すように期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は薬の管理と研修報告の記録整備であったが、いずれについても改善の取組みが行われていた。薬の収納箇所は施錠可能なように改造され、研修内容は報告書のファイルが作られていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニットの責任者が行ったが、次回からは全職員が参加して日頃の業務を皆で話し合いながら自己評価をするようにして改善課題を見出すような取組みを検討して欲しい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ開催していない。市の担当部門や自治会等に積極的に働きかけて入居者の家族の代表も参加した取組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族に対して職員が自筆の手紙を書いて入居者の暮らしぶりを報告して好評を得ている。家族の訪問時には職員は努めて話しかけるようにして、意見や要望を聞いている。家族会議を年2回実施して意見を聞いてホームの運営に役立てるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアの受け入れや、地域の幼稚園児との交流を始める等、徐々に連携を強めるように努力している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本的な人権の尊重、健全育成・援護の実現、社会的自立の助長、地域福祉への貢献「のんびりと笑顔あふれる第二の我が家」をホームの理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会議や勉強会、あるいは日々の申し送りなどの機会を見つけて理念の実践を皆で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の幼稚園児との交流を始める等、徐々に活動を広げる努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善事項は取り組んで実行している。評価結果を家族にもわかる様に入り口に配置している。今回の自己評価は各ユニットの責任者が行っている。	○	次回より自己評価はユニット毎に全職員が参加して自分たちの日常の業務について評価を実施して、更なる改善活動につなげて行くような取り組み期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ実施に至っていない。	○	市の担当部門と連絡を取って、自治会や家族の代表者が参加した運営推進会議が開催できるように積極的に働きかけて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当部門との更なる連携や協力体制を望んでいるがまだ整備されていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員が毎月自筆の手紙を書いて入居者の暮らしの様子を家族に報告している。大変温かみを感じられ家族からも喜ばれ、高い評価を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が参加しやすい行事の時に家族会を年に二回開催している。議事録を取り家族の意見を反映するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の体制は各ユニット毎に固定するようにして入居者との馴染みの関係を重視した配慮がある。職員も常勤者が中心である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・フロア責任者が中心になり職員を熱心に育成している。毎月の勉強会に職員も積極的に参加し、向上意欲や研究心も旺盛である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くと同系列のグループホームと会議や職員懇親行事を行って交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時は一定期間は家族との連携を密にしながら入居者が安心して暮らしに馴染むような配慮や工夫を行っている。その後にケアプランを立てるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の師として尊敬しながら、学びながら日々の暮らし・食事、レクリエーションを共に楽しむように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の残された能力や希望や思いの把握をしっかり確認した上で見守りながら支援するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が入居者の状況を把握し、本人・家族と相談して、意見を出し合っ介護計画を作成している。作成した介護計画を家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議の場を利用してカンファレンスを実施し、必要都度介護計画の見直しを行うようにしている。計画的に実施されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの機能を活かした地域への認知症相談対応への支援活動等は少ない。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談の上、入居者や家族の意向を尊重して適切な医療処置が受けられるように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	将来、重度化した場合についての対応や方針について家族や入居者との話し合いは適宜に行われているが、全員で情報共有をするような文書等にはなっていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の尊厳を大切にして、プライバシーへの配慮にも気を配っている、朝のミーティング等でお互に確認し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや生活のリズムを本人本位に考えて、ゆっくりとした支援が行われていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時には入居者と職員が共同で食事づくりが行われていた。食事は職員も一緒に、料理の話などの会話をしながら楽しく行われ、後片付けも皆で行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や体調に合わせた入浴支援が行われている。浴室には浴槽が左右二つ備えてあり、身体機能への配慮が伺える。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が作業し易いアイランドキッチンで家事を行ったり、趣味や洗濯物整理など暮らしの中で入居者の役割や楽しみごとが出来るような出番作りに工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は出来るだけ行うようにしている。家族と一緒に近くまで出かけたり、外出を伴う行事を企画している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入り口は施錠していない。エレベーターは暗証番号で操作するようになっている。入居者が外へ出る様子がある場合は職員がそれとなく対応するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知等の設備面や非常持ち出しや避難対策は実施できている。	○	避難訓練等において地域・自治会の自主防災組織と連携を密にするような取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は入居者ごとに毎日記録され健康管理に活かされている。入居者ごとの食べ易さ等にも配慮されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、廊下、居間はゆったりとしたスペースが確保されている。各居室の前には造りつけのベンチがあり、休み場所や交流の場所として利用できる等、建物内の設備レイアウトに工夫が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔に保たれている。入居者は使い慣れた家具や写真を置いて落ち着いて過ごせる居室になっている。職員は家族と相談して居心地の良い部屋になるように支援している。		